

令和7年度(2025年度) 第2回図書館協議会議事録

と き	令和7年9月25日(木) 午後3時開会
ところ	真庭市立中央図書館 3階会議室
出席者	清友久美子委員、松尾 敏正委員、庄司憲子委員、内藤貴嗣委員、 廣瀬正明委員、森年雅子委員、山本信子委員、湯浅稔委員、吉野奈保子委員
事務局	西川正(中央図書館長)、佐藤弘敏(図書館振興室室長) 上杉朋子(課長補佐)、横山衣未(主任)

1. 開 会

2. 館長あいさつ

みなさまお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本日は、基本計画の改定のためにお集まりいただきました。このあと、市民の皆さんと一緒に話をして、その結果をまた11月にお話をして、完成させたいと思っています。本日も皆様の意見をいただき、より良い計画にしていきたいと考えております。細かいところから大きな方針まで話ができればと思っています。よろしくお願いします。

○事務局(佐藤)：本日の協議会は前回お願いしたとおり、図書館基本計画の2次計画の策定(改定)についての策定委員会となります。後ほど、担当者から計画について説明をいたしますので、皆様から意見をいただきたいと思いますと考えております。

ここからは、真庭市立図書館条例施行規則により、清友委員長に進行をお願いします。

3. 議事

「真庭市図書館みらい計画」の改定について(資料1)

○委員長：「真庭市図書館みらい計画」の改定について、事務局から説明してください。

○事務局(上杉)：

今回、改定して作成する次期みらい計画では、現計画の使命や行動の柱については継承します。資料1は、前回の協議会の資料3でお示した、5年間の取り組みの進捗状況と課題を整理しながら、図書館振興室でまとめた案です。

表面は、柱ごとの成果と課題、計画全体の取り組み成果のまとめを掲載しています。中央に次期みらい計画の新しい柱と基本方針をまとめました。「○」は、基本方針のポイントとなる言葉です。

たとえば、現みらい計画の柱1「公共図書館としての存立基盤の整備」を分かり

やすい言い方に変更し「本と出会える場所になる」としたいと考えております。この下の「○市民参画・協働、○「持続可能」な図書館運営」は、新しい柱1のキーワードです。その下の①～⑤が柱の基本方針となります。現在のみらい計画では、柱ごとに「基本方針」、「基本方針を具体化する計画」、「めざす姿」となっています。この資料では、「基本方針を具体化する計画」を「基本方針ごとの具体的な事業・活動」として裏面の右側に書いています。

表面、一番下には5年間のまとめを掲載しています。その右側には、「ライブラリーオブザイヤー2024」優秀賞を受賞したことを載せています。外部からの評価として、この5年間、市民と一緒にやってきた現計画の方向性について、新計画でも継続することの一つの根拠として記載しています。

裏面左半分は、現在のみらい計画の進捗を評価してきた指標の5年間のまとめです。評価の指標は、①実貸出利用率、②市民や団体、学校との協働事業の回数と参加人数、③図書館協議会や図書館そだて会議などで市民との意見交換や対話を重ねるなかで評価される点や課題です。①と②はそれぞれ数値の推移を表にしました。③については、2022年度から2025年度1回目の図書館協議会での意見を抜粋して掲載しました。図書館協議会では、毎回、運営状況の資料や図書館そだて会議の報告などを聞いていただいていますので、図書館の運営状況を総合的に判断していただいているものと考えました。

このうち、次期みらい計画では、実貸出利用率については、真庭市立図書館の活動を測るための指標としてはそぐわないようだとご指摘いただいています。そこで、この数値を取ることをやめるのではなく、活動状況を測る数値の一つとして残したいと考えています。

その代わりに、新しい指標の追加を検討しています。「図書館があって良かったと思う市民の割合」というものです。この指標は、足立区立図書館の「足立区図書館サービスデザインアクションプラン」で使用されているものです。なぜこの指標かといいますと、先日、西川館長と私とで、足立区立図書館の図書館協議会委員をされている豊田恭子さん(東京農業大学教授。『闘う図書館』著者)のお話をうかがう機会がありました。豊田さんの話しによると、アメリカのライブラリアンは22の職業のなかで看護師に次いで「信頼できる」という評価を得ているそうです。これは、看護師もライブラリアンも「答え」を持っているわけではないが、相談に「応え」てくれるからだろうとおっしゃっていました。このように図書館の利用者を増やすことをめざすのではなく、図書館は信頼できる場所と思われること、ファンを増やすことが大切という話しをされていました。日本でも、何かを調べに来た人に対して、「これが答えです」と解答を伝えるのではなく、お調べの内容をよく聞いて、内容にあったさまざまな資料を示して、ご本人が答えを見つけられるようにお手伝いするのが図書館員の仕事です。アメリカのライブラリアンと同様に、こうした仕

事を積み重ねることで図書館が信頼されていくのだということでした。では、このことを評価する指標は何でしょうかと豊田先生にうかがいました。そこで出てきたのが、「図書館があって良かったと思う市民の割合」という指標でした。足立区立図書館では、最終成果指標を「区立図書館があって良かったと思う区民の割合」とし、5年後に30%とすることをめざされています。

裏面の右半分は、表面の次期みらい計画の内容の続きです。新しい柱の基本方針ごとに、具体的な事業や活動の例を記しています。現計画から引き続いて取り組むものもあれば、今後力を入れていきたいものもあります。ここまで書きこんでいると「計画はでき上がっているから、意見は出さなくていいだろう」と言われそうですが、柱ごとに取り組む内容をある程度お示したほうが意見が出やすいだろうと考えました。普段、図書館を使っている方も、いない方も、こんなことも出来るのではないかと、こっちをやってみたほうがいいんじゃないかなど、意見を出していただきたいと思います。図書館そだて会議などでも事業について詳しくお話できればと思っています。

本日の協議会、10月半ばに全館で開催する図書館そだて会議、市役所の各部署にも見てもらい、追加や修正をしてまいります。以上です。

○委員長：事務局から説明がありました。案を作るにあたっての試行錯誤もあったようです。この資料表面をもとに協議を進めていきましょう。まずは表面から見ていきましょう。

○委員：まとめかたが斬新で分かりやすくていいですね。一つお聞きしたいのが、新しい計画の5つの柱は、今までの5年間と違いはありますか。

○事務局：内容は変えていません。誰にでも分かる表現に言い換えています。

○委員：わかりました。

○委員：先日、社会教育委員で「外国人との交流」をテーマに視察に行きました。真庭には5～600人の外国の方が住んでいます。そして図書館の存在意義は本だけではなくなっています。図書館と公民館のコミュニティ的な部分との複合がベースになるのではと思っています。そのことを忘れないように計画を立ててください。そういう意味で5の柱について、「誰かと出会える場所になる」という表現はもう少し何かないでしょうか。柱3の「地域と出会える場所になる」については、図書館という場には欠かせない機能だとうたえてほしい。「過去と出会う」ことは地域と出会うということなのかなと。少し言い換えてもいいのではないのでしょうか。

○委員長：柱3と5のタイトルについて、もっと内容に沿うものにする。そして海外の多様な人たちと一緒に何かすることにもふれてはどうかということですね。

○委員：中央図書館に関していうと、郷土資料館とあまり連携できていないのではないのでしょうか。それと観光という視点もあったらどうでしょう。私は移住の希望者や視察の方は必ず図書館にお連れします。そういう意味でも観光の視点は大事。今回「クールジャパンアワード 2025」に「勝山の暖簾」が選ばれました。町並みを案内する時に、のれんを見て案内するだけではなく、のれんが持つストーリーも大切にしている。柱3にそういったことも入れたい。

柱5については、12月に「コミュニティカレッジ」という図書館との連携事業があります。市民が教え、市民が学び合う。今回、講師募集をしたら10代から70代まで幅広い世代から20人も応募がありました。選考で8人に絞りましたので、今回は講師をできない方にチャンスがあるといいなと思っています。教え合い、学び合うということが計画にも入るといいなと思います。世代を超えた、図書館ならではの交流ができるのではないのでしょうか。これは柱4に入りますかね。

○委員：5本の柱があって、その真ん中に「市民と団体による地域自治の拠点として」と書いてありますが、5つの柱がこの使命の範囲を超えているように感じます。

地域自治の拠点というのが一般の方にはぴんとこないのかもしれませんが。専門性のあるスタッフは大切ですが、サービスを受ける側ではなく、主体として集まるのなら地域自治の拠点となるような気がします。しかし、地域自治の拠点というのがどういうことかはつきりと分からない。目指すとあるけどどういう意味だったかなという感じ。例えば公民館であれば地域自治の拠点でしょう。地域自治の拠点は、小学校単位、中学校単位のことだろうと私は思います。中央図書館と地域の図書館ではすべての地域は見れないだろうと思っています。

○委員：公民館との図書館の役割分担の整理をすれば、図書館はこういうことを図書館としてやる、図書館らしい地域とのつながり方をする。そういうのが見えてくるのではないのでしょうか。棲み分けをしていかないとぼやけると思います。当然、図書館ができることの限界があるでしょう。それ以上のことは目標にはしない方がいいのではないかと思います。図書館は公民館と協力して図書館らしくやっていく。その方が分かりやすいと思う。

○事務局(佐藤)：おっしゃることはよく分かります。ただ、公民館は他の組織に属していて、図書館の計画で一方的に踏み込めないところでもあります。また、地域自

治の拠点とは何だろうと感じられることもよく分かります。我々も図書館がどこまで関われるのか試行錯誤しているところです。

実際、図書館が現在やっていることにより近づけた使命（言葉）に変えるということもありえるだろうと思います。今回は大きく変えないということもあり、使命はこのまま残しています。

○委員：私も教育委員会と関わっていますが、ジレンマがあります。小学校、中学校をコミュニティスクールにして地域自治の拠点にするべく、学校機能と地域が何を求めるかという部分をうまく整理できていません。このあたりが大事な議論だろうと思っています。

○委員：公民館の組織と図書館は話し合いや協議をされていますか。

○事務局(佐藤)：公民館担当の生涯学習課とは機会を設けて話をしています。真庭市の現状では、全図書館に司書がいるので公民館的な役割も担っているということもあると考えています。本来は公民館にも力を入れてしっかり人をつけるべき。これは公民館の課題でもあります。図書館は本をただ貸す場所だけではなくなっています。

○委員：司書さんが社会教育主事の役割を担ってくださっているような状況で、すごいと思っている。一方で公民館には専門の方が配置されていない状態ということですね。

○委員長：これは図書館の計画で、図書館の使命ですからね。

○事務局(上杉)：現在のみらい計画を策定した時に、地域自治とは市民自治と地方公共団体による自治の二つからなるものだと、その拠点にしたいと前副市長がおっしゃいました。真庭市は公民館があまり機能していないので、図書館にその役割をやってもらいたいとも言われていました。館長も着任時に、教育長から「まちづくりの拠点は図書館だ」と言われたそうです。そして、他の自治体の図書館でも、公民館と図書館のやっていることが近くなっています。昔は図書館よりも公民館活動が盛んでしたが、最近は公民館の力が弱くなってきているのかもしれません。

真庭市には9つ公民館があります。富原と月田の公民館は住民主体で運営されていて、この2つのほかは久世公民館以外は振興局が公民館の役割を持っています。北房、落合、久世は生涯学習推進員という名前の職員が配置されています。これは社会教育主事を持っているか、または相当する経験のある人で会計年度職員です。

他の地区には配置されず、振興局の地域推進課の職員が兼務しているという状況です。そんな状況なので、振興局にある図書館の司書に声がかかりやすい。生涯学習課とは、足りない部分を補い合っていきたいと思いますと話しています。

○委員：そのような現状を市民は知らないの、計画に入れたらどうでしょう。そうすれば「図書館はなぜあんなことまでやっているの」とならないのではないのでしょうか。図書館が向かっている方向もより分かりやすくなるのでは。

○委員：地域自治の拠点としての在り方を、図書館そだて会議などで議論しながら考えて、新しい計画を作っていますよというのをどこかに入れるといいと思います。

○事務局(館長)：社会教育委員会のなかでは、この件に関して、議論されていますか？来年度が「生涯学習基本計画」の改定時期だと思いますが。

○委員：社会教育委員会は、外国人との関わり方など毎年決まったテーマで諮問を受けて、教育長に答申していく役割なので、そうした議論はありません。

みらい計画の上位計画に「真庭市教育振興基本計画」があつて、ここに重点的な施策として「公共図書館としての存立基盤の整備」「子どもの学びへの能動的な貢献」「市民がつながる地域交流拠点創出」などみらい計画の内容が書いてあるので、これはなくせないだろうと思います。使命よりも使命を達成するための5つの柱の方が重要だと思います。使命の通りに図書館が動いているとは思えない、市民に求められたことをやり続けているように感じています。

○委員：「使命」という言葉が重いので、「役割」くらいでどうでしょう。

○事務局(館長)：地域自治の推進を、市民が主体となって進める活動の推進という意味として考えると、例えば、交流定住センターなども含めて、市全体として、どう進めていくかの全体像があるといいですね。その中で図書館はどこを担うのか？ということについての議論が。使命については、私が真庭の来るきっかけの一つとなったのは、みらい計画のまえがきの教育長の言葉でした。使命をわかりやすく書かれていると思いました。

○委員：「真庭市教育振興基本計画」も教育長の思いがこめられています。図書館についていえば、「公共図書館としての存立基盤の整備」「子どもの学びへの能動的な貢献」「市民がつながる地域交流拠点創出」など分かりやすい言葉でできている。図書館の本来の使命はこれらなのかなと思います。「真庭ライフスタイル」は外してもい

いのでは。3年半経って存立基盤は確立されたのではないのでしょうか。それで「ライブラリーオブザイヤー」を受賞した。他自治体の社会教育委員が図書館に視察に来ていることも聞いていますし、そういった意味でも十分基盤整備はされていると思います。

○委員長：使命の部分はどう表現するか。5つの柱は残したい。それをどう使命として表現するか、事務局で考えてみてください。

○委員：自治の拠点は重い言葉ですね。「地域をつなぐ拠点」は少し分かりやすいかな。

○委員：「知の拠点」とか。

○館長：以前、筑波大の吉田右子先生に教えていただいたのですが、北欧では公民館と図書館が一体になっているものを図書館とよんでいるそうです。先ほどもお名前が出た、豊田恭子さんによると、アメリカでの「ライブラリアン」の仕事は、日本の司書よりも幅広いそうです。多文化共生や貧困対策など社会課題に社会教育の視点で取り組んでいたりします。公民館と図書館が分かれている日本はのほうめずらしいのかもしれませんが。

○委員：市民に分かりやすいように、「地域自治」という言葉が出てきた経緯についても計画に書き込んでもらえるといいなと思いました。

○委員長：いったん表面についての話しは終わりましょう。裏面の右側についてみなさんそれぞれのお立場で意見を出してください。

○委員：資料のレイアウトやカラーがとても素敵だと思いました。分かりやすい言葉に言い換えてくださるところもいいです。市民には、子どもから大人、日本人だけでなく外国の方もいます。そういった点でも、分かりやすい言葉で説明されていてとてもいいなと思いました。欲を言えばもう少し文字が大きいといいなと思いました。子どもたちも見やすいものはよく手に取ります。図書館のキャラクター「ジテン」も小学校で人気です。

今回の改定版では、子どもたちの部分を重点的に見せていただきました。「子どもが育つ場所になる」は、とても大切なことだと思います。年齢段階にあった支援、子どもの居場所としての役割、図書館という形は残して、新しい形にどんどんチャレンジしていけばいいのではないかと思います。今までの枠を超えて協働し、挑戦している様子が伝わってきました。市民から意見をいただくという部分も良いと思

いました。

- 委員：この案を見て気になることは特にありませんでした。一つ言わせてもらえば、柱3「地域と出会える場所になる」が普通すぎるかなと思いました。ひらがなでカギ括弧にいて、「まにわ」と出会える場所になる」などはどうでしょう。柱5の「誰かと出会える」は、「誰か」というのがぴんとこないかなと思いました。「思いがつながる場所になる」など、「つながる」というワードはどうでしょうか。

「地域自治の拠点」については、資料で「自治の拠点」にアンダーラインが引いてありますけれど、「地域」には引かないのかなとも思いました。そのほかは、とてもよくまとまっていると感心しました。

- 委員：市民との対話を通じて図書館を育てていくということで、そだて会議のことが出ていますね。市民との対話を通して地域自治の拠点としての図書館を育てていくとしてしまうのはどうでしょう。そだて会議などで考えていく、というイメージです。

- 委員：非常に良い目標だと思いますが、次の5年間でやることのなかでも重点事項、この中でも特にやりたいことをピックアップして「◎」でも付けて目標を明確にしてみてもどうでしょう。

- 事務局（館長）：柱の下に「○」のキーワードで書いてあるのが重点目標でもあります。例えば、一つ目の柱では、「持続可能な運営」。2つ目では「学校図書館支援」司書の授業など教育活動への参加です。5つ目の柱では多文化も重点の一つになってくると思っています。先日、日本語サークルの人たちと一緒に図書館で遊んで、話を聞きました。工場と家を往復していて日本人と出会うことがあまりないんだとおっしゃっていました。直接人と人が出会える場所を作っていく必要があると思いました。

- 委員長：それぞれの柱の下に二つずつくらい上がっているものが重点目標ですね。

- 委員：火曜日に子どもと一緒に図書館の読み聞かせの会に来ています。そこで、新しくお友だちができていますので、表現として「つながる」というのがいいなと思いました。

「子どもが育つ場所になる」の柱4には、ぜひ「安心して」というワードを入れてほしいなと思います。「④子どもが居たいようにいられる～」は、居たいようにいると、危険なことをしてしまう子もいるので、図書館では安心して過ごせるよとい

う表現はどうでしょう。

○事務局（館長）：原文の「居たいように居る」が、「やりたい放題」の意味になると、たしかに困ります。今年の夏に、キッズスペースで走り回ったりする子が多くて、対応に苦慮しました。これは図書館単独でかかえる課題ではなく子どもたちが安心していられる・遊べる場所を地域で考えないといけないと思いました。その意味で安心してという文言はいいですね。

○委員：普段の土・日曜でもそういうことが起こり得るんですか

○事務局（館長）：今年のような酷暑では「外に行ってやってね」と言えず、難しかったです。集まって遊ぶというのは大事なことです。例えば、子どもがたくさんいる時間に子どもといっしょに過ごしてくれるプレイワーカーを配置できるとよいのですが。

○委員：公民館と図書館が先ほど話されていたようなことになっていることは、市民は知りません。図書館は静かに本を読むところという認識の人が多いと思います。そのあたりを、真庭市民がどのように考えられるかなと思いました。この計画を読むことで理解が進むといいなと思いました。

柱2の「⑤一人でも友だちとでも過ごせるスペースと見守る人材の確保」という部分は、もっと上の方に書いてあるといいと思いました。一人でも安心して来られる場所だといいなと思います。私の家族も、中央図書館に行くのを楽しみにしています。工作スペースなどとても喜んで利用しています。

○委員長：いろいろな事業や活動がありますが、重点的にやる、めりはりをつけることも必要かなと思います。いくつか表現の提案がでましたので取り入れていただけたらと思います。

次に左の運営の評価についてご意見をいただきたいと思います。3つの指標を残すのか4つ目の指標についての意見など検討していきたいです。

○委員：実貸出利用率は「真庭市教育振興基本計画」に載っているので削除はできないですね。30%は理想であって、真庭では難しいということはよく分かっています。

②の指標について、イベントの参加人数を材料として使ったらいいと思います。追加されたいという指標「図書館があってよかったと思う」市民の数は「まにアプリ」を使ってやってみるといいと思います。

質問ですが、勝高のアンケートについてはどのように取りますか。あと、苦情や

意見の受付箱があるのかどうか。日頃、思っていることを投書したりする機会がありますか。

○事務局：勝山高校の鼓山祭にはブックるんまにわで行って、アンケートは対面で聞き取りながら取ります。ご意見箱のようなものは、北房図書館と久世図書館には設置しています。北房図書館では、中央図書館にある新刊図書の背表紙の写真を撮って掲示してほしいという意見があり、対応しました。その他はカウンターなどでご意見などいかがでしたら、日報などで共有して対応しています。

○委員：そだて会議の顔ぶれが同じになってきていると言われていましたよね。会議の席で思っていることを言える人は限られてくると思っています。要望などを、書いてもらうなど対応をするというのではないのでしょうか。

○委員：「図書館があってよかった市民の数」は、とってみたほうがいいと思います。その時に、「こういう理由であって良かった」ということも、市民のニーズが見えるので聞いたらいいと思いました。良かった理由が見えてくると図書館の何に満足しているのか分かって良いと思います。

○委員：「あってよかった」と「こうあってほしい」という議論ができるといいですね。

○委員：理由は大切ですね。クーラーがあってよかったとか Wi-Fi があってよかったとか。

○委員：私の意見としては①の実貸出利用率は残したらいいと思います。ただ 30%に近づけるというのはやめて、この 5 年間の推移からも、12%を目指しますというほうが現実的ではないかと思います。

「図書館があってよかったと思う市民の数」は非常にいいことだと思います。民間企業でいう顧客満足度アンケートですよ。評価目標としてやるなら現状と目標が必要。現状を事前にとって、目標を作らないと評価にならないと思います。足立区の目標 30%は妥当なのかどうか。

○委員：「まにアプリ」でアンケートを取るとすれば、図書館には普段行かない人でも、図書館の必要性は分かっている。そういう人は「図書館は必要」にするのでは。

○委員：声を集めるという意味ではこのアンケートはあっていい。図書館に行ったこ

とがあるか、ないかも聞いたらいいと思う。

○事務局（館長）：「おしん」を上映した時に、図書館に来たことがない人にたくさん来ていただくことができました。まだまだそういう方がいらっしゃるのだとあらためて認識しました。

○委員長：4番目の評価指標はぜひ加えましょう。重要な指標になるかもしれません。何か他にありますか。
ないようですので事務局に進行をお返しします。

○事務局（室長）：本日、良い意見をたくさんいただいたので可能な限り計画案に反映させて、地域や庁内部局で話をしていきたいと思います。

4. その他

- ・9月28日「山陽新聞」朝刊に西川館長の提言が掲載されます。
- ・次回の図書館協議会は11月19日(水)午後3時からです

5. 閉 会

○副委員長：みなさま本日はいろいろな立場からのご意見をありがとうございます。

現在、真庭市でも大阪万博にあやかって「真庭万博」をやっています。真庭市から10社以上が万博に関わっています。それぞれに脱炭素について積極的に取り組んでいる会社が多いです。みんなのちょっとした努力で環境を守りたいということで「真庭万博」をやっています。スタンプラリーでは景品にエシカルカードを配布しています。山本校長先生がカードの絵柄になっています。本庁舎で明日までです。みなさま寒暖差が大きくなっていますがお体ご自愛ください。